

2010年3月3日

関係各位

第7回日独スポーツ科学会議開催要項

第7回日独スポーツ科学会議実行委員会

朝岡 正雄

岡出 美則

市場 俊之（担当者）

拝啓

ドイツ統一後まだ間もない1994年、ベルリンで第1回日独スポーツ科学会議が開催されました。その後1996年（東京）、1998年（エッセン）、2000年（フェーレン）、2002年（京都）と定期的にかかれてきました。2005年（イエナ）の第6回会議後、諸般の事情により4年間もの間次回開催が延期されてきました。しかし今年2010年、中央大学保健体育研究所の学術国際会議開催として中央大学国際交流制度による補助を受け、東京において第7回日独スポーツ科学会議を下記のように開催することになりました。できるだけ多くの方々に参加・発表いただけますようご案内申し上げます。

記

日時： 2010年10月6日(水) 7日(木) 8日(金) (3日間)

会場： 中央大学駿河台記念館 (http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/kinenkan/index_j.html)

テーマ： 「**スポーツとスポーツ科学のグローバル化の中の日本とドイツ**」

使用言語：日本語・ドイツ語・英語

参加費： 20,000円（資料代金を含む。懇親会費、宿泊費とは別。）

懇親会： 別紙参照の事

宿泊費： 1泊 10,400円 11,200円程度（「東京ガーデンパレス (<http://www.hotelgp-tokyo.com/>)」に宿泊の場合。朝食は含まない。）

お手数ですが、参加および発表の可能性について、メールまたはファックスにて連絡いただければ幸いです（様式の例は次ページ）。

敬具

第7回日独スポーツ科学会議

氏名					
所属					
連絡先	〒				
	Tel.:				
	Fax.:				
	e-mail:				
参加	参加する		参加しない		該当する方に○をお付け下さい。
発表	発表する		発表しない		
	発表テーマ				
宿泊	10月5日 (火)	10月6日 (水)	10月7日 (木)	10月8日 (金)	ガーデンパレス宿泊希望日に○を付けて下さい。
懇親会	10月6日(水)		10月7日(木)		該当する方に○を付けて下さい。
	参加する	参加しない	参加する	参加しない	

* 宿泊：実行委員会でとりまとめ、ガーデンパレスに連絡します。清算は個別にお願いします。

* 懇親会：10月6日(水)は駿河台記念館内のレストランにて中央大学学長招待レセプションを予定しています(参加無料)。10月7日(木)は、ドイツ文化会館内レストランにて懇親パーティーを予定しています(費用6000円)。

送付先：

市場俊之(いちば・としゆき)

Tel.: 042-674-3583 Fax.: 042-674-3651 e-mail: ichiba@tamacc.chuo-u.ac.jp

〒192-0393 八王子市東中野742-1 中央大学2号館11階54室

締め切り：2010年5月10日(月)

第 7 回日独スポーツ科学会議の概要

1. 主催 第 7 回日独スポーツ科学会議実行委員会
2. 主管 第 7 回日独スポーツ科学会議日本側実行委員会
3. 後援 中央大学, 中央大学保健体育研究所, DAAD, 東京ドイツ文化センター, ドイツ観光局…
4. 会期 2010 年 10 月 6 日(水) 7 日(木) 8 日(金)
5. 会場 中央大学駿河台記念館
6. 参加者 日独のスポーツ科学者約 50 名
7. 内容
 - I 大会テーマ 「**スポーツとスポーツ科学のグローバル化の中の日本とドイツ**」
 - II 一般発表 1)スポーツ指導者養成 2)学校スポーツ 3)学校外スポーツ 4)余暇スポーツ 5)青少年スポーツ 6)高齢者のスポーツ
 - III その他

発表：発表希望の数によりますが、発表時間は 20 分程度を想定しています。発表の際に用いる機材については問い合わせして下さい。

抄録：抄録集は A4 サイズとしますので、原稿はできるだけ見開き 2 ページにまとめて下さい。画像や図表なども文書に貼り付けて下さい。こちらで全体の形式などを統一しますが、発表タイトル、発表者の氏名、氏名に続けてカッコ内に所属を記して下さい。連絡担当者（下記）にメール添付文書として送付して下さい。締め切りは、2010 年 7 月 16 日（金）です。なお、画像や図表などの容量が大きくメールによる提出が難しい場合には、CD などとして郵送して下さい。

送付先：

市場俊之（いちば・としゆき）

Tel.: 042-674-3583 Fax.: 042-674-3651 e-mail: ichiba@tamacc.chuo-u.ac.jp

〒192-0393 八王子市東中野742-1 中央大学2号館11階54室

締め切り：2010 年 7 月 16 日（金）

OK des 7. Deutsch-Japanischen Sportwissenschaftlichen Symposiums
Prof. Dr. Masao ASAOKA
Prof. Dr. Yoshinori OKADE
Prof. Dr. Toshiyuki ICHIBA (Kontaktperson)

03. März 2010

Betr.: Das 7. Deutsch-Japanische Sportwissenschaftliche Symposium 2010 in Tokio

Sehr geehrte Kolleginnen und Kollegen,

im 1994 -fast gleich nach der Wiedervereinigung Deutschlands- fand in Berlin zum ersten Mal das Deutsch-Japanische Sportwissenschaftliche Symposium statt. Regelmäßig wurde das Symposium durchgeführt: Tokio 1996, Essen 1998, Velen 2000 und Kyoto 2002. Nach dem 6. Symposium in Jena 2005 wurde diese Veranstaltung mehr mal verschoben, aber nicht aufgegeben! Nun kann das 7. Symposium im Oktober 2010 in Tokio/Japan abgehalten werden. Das 7. Symposium wird durch Chuo Uni. und The Institute of Health and Sports Science/Chuo Uni. unterstützt.

Ausschreibung

Termin: 06.-08. Oktober 2010
Ort: Surugadai Kinenkan der Uni. Chuo/Tokio
Thema: „Japan und Deutschland in der Globalisierung des Sports und der Sportwissenschaft“
Sprache: Japanisch, Deutsch, Englisch.
Tagungsgebühr: ¥20,000Yen
Empfang und Party: siehe Anmerkung*2
Unterkunft: Hotel Tokyo Garden Palace(Eine Übernachtung kostet 10,400~11,200 JPY)(siehe Anmerkung*1)

Anmeldung: Bis 10. Mai 2010 per E-Mail an die Kontaktperson mitteilen.

Kontaktperson:

Prof. Dr. Toshiyuki ICHIBA

Chuo Uni.

Higashinakano 742-1, Hachioji, Tokio 192-0393/Japan

Tel.: +81(0)42-674-3583 Fax.: +81(0)42-674-3651 e-mail: ichiba@tamacc.chuo-u.ac.jp

Das 7. Deutsch-Japanische Sportwissenschaftliche Symposium 2010 in Tokio

Name			Vorname		
Uni./Angehörige					
Adresse	Postadresse				
	Tel.:				
	Fax.:				
	e-mail:				
<input type="checkbox"/> Ich nehme am D.-J. Sportwissenschaftlichen Symposium 2010 teil.					
<input type="checkbox"/> Ich möchte ein Referat halten.*3					
Worüber?*4					
Unterkunft(Tokyo Garden Palace)*1	<input type="checkbox"/> Di., 05. Okt. 2010	<input type="checkbox"/> Mi., 06. Okt. 2010	<input type="checkbox"/> Do., 07. Okt. 2010	<input type="checkbox"/> Fr., 06. Okt. 2010	Bitte checken <input checked="" type="checkbox"/> , wenn ein Zimmer reserviert werden muß.
Empfang und Party*2	<input type="checkbox"/> Empfang Mi., 06. Okt. 2010		<input type="checkbox"/> Party Do., 07. Okt. 2010		Bitte checken <input checked="" type="checkbox"/> , wenn man daran teilnehmen möchte.
	Als Empfang grdacht (voraussichtlich kostenlos)		Gemütliches Zusammensein der Fachleuten(voraussichtlich kostenpflichtig)		

Anmerkungen:

- *1. OK vermittelt ans Hotel Tokyo Garden Palace. Man sollte selbst vor Ort abrechnen.
- *2. Die Abendveranstaltung am Mi., 06. Okt. ist als Empfang vom Direktor der Uni. Chuo gedacht und voraussichtlich kostenlos geplant. Der Empfang wird im Tagungsgebäude stattfinden. Die Party am Do., 07. Okt. sollte ein gemütliches Zusammensein zwischen D.-J. Fachleuten in der Sportwissenschaft sein. Die Party wird in einem deutschen Restaurant kostenpflichtig starten.
Das kostet 6,000 JPY.
- *3. Ein Referat sollte ca. 20 Minuten betragen.
- *4. Anzugeben ist der (vorläufige) Titel des Referats.
- *3+*4. Die Zusammenfassung sollte A4 x 2 Seite sein und bis Fr., 16. Juli 2010 an die Kontaktperson gerichtet werden.

Kontaktperson:

Prof. Dr. Toshiyuki ICHIBA
Chuo Uni.

Higashinakano 742-1, Hachioji, Tokio 192-0393/Japan

Tel.: +81(0)42-674-3583 Fax.: +81(0)42-674-3651 e-mail: ichiba@tamacc.chuo-u.ac.jp

2010年3月10日

殿

第7回日独スポーツ科学会議実行委員会
朝岡 正雄 (筑波大学)
岡出 美則 (筑波大学)
市場 俊之 (中央大学) (担当者)

第7回日独スポーツ科学会議

趣意書

日本とドイツにおけるスポーツ科学者の幅広い交流を目的とする「日独スポーツ科学会議」は、1993年、チュービンゲン大学の Ommo Grupe 教授とキール大学の Herbert Haag 教授のドイツ側代表と、当時の日本体育学会会長である成田十次郎教授の日本側代表との間で構想されました。第1回会議は1994年1月にドイツのベルリンで開催されました。その後、1996年（日本）、1998年（ドイツ）、2000年（ドイツ）、2002年（日本）、2005年（ドイツ）と定期的で開催され、その成果の一部は報告書として出版されています。2010年10月に東京で開催される第7回会議は、中央大学保健体育研究所の学術国際会議開催として中央大学国際交流制度による補助を受けます。

今回のメインテーマは、「**スポーツとスポーツ科学のグローバル化の中の日本とドイツ**」です。このようなメインテーマの下に、会議ではシンポジウムと一般研究発表が行われます。シンポジウムでは「**スポーツのグローバル化の中の日本とドイツ**」が議論されます。また、一般研究発表では次のようなテーマを設けました。1)スポーツ指導者養成 2)学校スポーツ 3)学校外スポーツ 4)余暇スポーツ 5)青少年スポーツ 6)高齢者のスポーツ。

日本とドイツのスポーツ科学者が「**グローバル化の中での日本とドイツのスポーツとスポーツ科学**」に関する議論を深めることは、両国のスポーツ科学の発展に寄与するだけでなく、スポーツ科学の国際的な発展にも貢献することが期待されます。どうか、このような趣旨にご理解を賜り、ご援助をお願いできれば幸甚に存じます。